

三好アグリテック株式会社

～農業分野の 新たな可能性の実現を目指して～

三好アグリテックは2005年4月に設立され、山梨県北杜市小淵沢町の高冷地に位置しており、従業員は、社員32名、パート33名が勤務しています。

栄養繁殖系植物に特化しており、メリクロン培養を用いて健全な苗を増殖し、お客様に安心してお使いいただける苗を提供している会社であり、取扱品目は、栄養繁殖系野菜（イチゴ、サツマイモ、ワサビ）およびカーネーションとなっています。

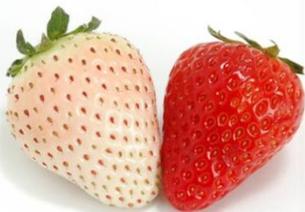
メリクロン培養では生育が均一、旺盛など、高品質な苗の生産が可能となります。



また、苗生産だけに留まらず、時代のニーズを捉え、新規事業にチャレンジしています。

「白いイチゴなんて受け入れられない」という常識にとられず20年の歳月をかけて、果実が熟すと白色に変化し、うっすらとピンク色に染まる「初恋の香り」というイチゴを育種しました。味は、見た目からは想像も出来ないような甘さで、現在、青果はもちろんのこと、お菓子など様々なものに加工され話題のイチゴとなっています。

このように、時には遊び心あるチャレンジで農業分野の新たな可能性の実現を目指しています。



現在、あらゆる事業分野において、「環境」という言葉が一つのキーワードとなっています。これは、農業の分野においても例外ではありません。企業は環境に対する負荷を可能な限り軽減し、地球にも人にも優しい活動を心がけるべきです。

当社においても、今までは病害虫のない優良な苗生産を追究してきましたが、更にこれからは環境へ配慮した苗生産を確立する必要があります。そこで、MPSに参加し、環境に対する意識を高め上記の両立を目指しています。



当社にとって、良質な苗を作るうえで、農薬による病害虫防除は不可欠となっているのが現状です。しかし、環境配慮という点から見れば、当然問題があります。MPS参加以降、今まで以上に防虫ネット、防草シートや踏み込み槽使用の徹底など、農薬以外での病害虫防除を意識するようになり、更には農薬使用量の見える化によって、散布ローテーションの改善へと繋げることができ、相当量の農薬使用量を削減することも実現しました。

また、MPS参加にともない、社内で「エコプロジェクト」を立ち上げました。これは、各部署から選出されたメンバーで構成された、社内環境改善プロジェクトです。

プロジェクトメンバーにより、圃場以外でのエネルギーの使用量削減、廃棄物分別の徹底等、幅広い視点から環境に対してアプローチしています。

震災の影響で、厳しいエネルギー事情となっていることも相まって、いわゆる省エネやエコは、今後、一層重要さを増すように思えます。現状に満足せず、より地球に優しく良質な苗をお客様にお届け出来るよう、努力を続けていきます。

